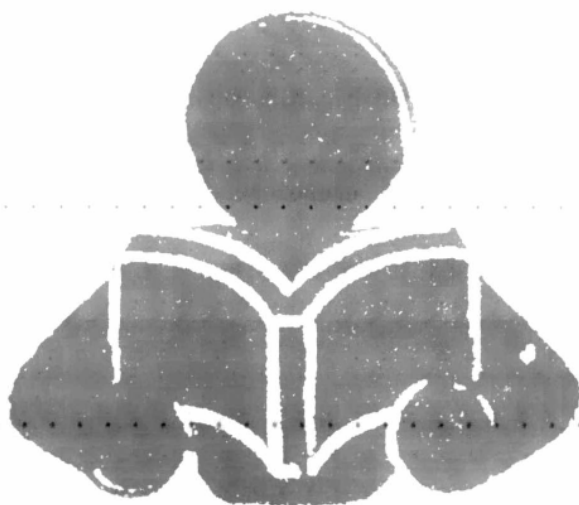


読むことを教える



読むことを教える



国際交流基金 日本語教授法シリーズ

【全14巻】



第1巻 「日本語教師の役割／コースデザイン」



第2巻 「音声を教える」 [CD-ROM付]



第3巻 「文字・語彙を教える」



第4巻 「文法を教える」



第5巻 「聞くことを教える」 [CD付]



第6巻 「話すことを教える」



第7巻 「読むことを教える」



第8巻 「書くことを教える」



第9巻 「初級を教える」



第10巻 「中・上級を教える」



第11巻 「日本事情・日本文化を教える」



第12巻 「学習を評価する」



第13巻 「教え方を改善する」



第14巻 「教材開発」

■はじめに

国際交流基金日本語国際センター（以下「センター」）では1989年の開設以来、海外の日本語教師のためにさまざまな研修を行ってきました。1992年には、その研修用教材として『外国人教師のための日本語教授法』を作成し、主に「海外日本語教師長期研修」の教授法の授業で使用してきました。しかし、時代の流れとともに、各国の日本語教育の状況が変化し、一方、日本語教授法に関する研究も発展したため、センターの研修の形や内容もさまざまに変化してきました。

そこで、現在センターの研修で行われている教授法授業の内容を新たにまとめ直し、今後の研修に役立て、また広く国内外の日本語教育関係のみならずにも利用していただけるように、この教授法シリーズを出版することにしました。この教材の主な対象は、海外で日本語教育を行っている日本語を母語としない日本語教師ですが、広くそのほかの日本語教育関係者や、改めて日本語教授法を独りで学習する方々にも役立てていただけるものと考えます。また、現在教師をしている方々を対象としていますが、日本語教育経験の浅い先生からベテランの先生まで、できるだけ多くの方々に利用していただけるよう工夫しました。

■この教授法シリーズの目的

このシリーズでは、日本語を教えるための必要な基礎的知識を紹介するだけでなく、実際の教室で、その知識がどう生かせるのかを考えてもらうことを目的としています。

国際交流基金日本語国際センターでは、教師の基本的な姿勢として、特に次の能力を育てることを目的として研修を行ってきました。その方針はこのシリーズの中でも基本的な考え方となっています。

1) 自分で考える力を養う

理論や知識を受身的に身につけるのではなく、自分で考え、理解して吸収する力を身につけることを目的とします。

2) 客観性、柔軟性を養う

自分のこれまでの方法、考え方にとらわれず、ほかの教師の意見や方法を知り、客観的に理解し、時には柔軟に受け入れることのできる教師を育てることをめざします。

3) 現実を見つめる視点を養う

つねに現状や与えられた環境、自分の特性や能力を客観的に正確に把握し、自分の現場に合った適切な方法を見つける姿勢を育てることをめざします。

4) 将来的にも自ら成長できる姿勢を養う

研修終了後もつねに自分自身で課題を見つけ、成長しつづける自己研修型の教師を育てることをめざします。

■この教授法シリーズの構成

このシリーズは、テーマごとに独立した巻になっています。どの巻からでも学習を始めることができます。各巻のテーマと概要は以下の通りです。

- | | | |
|----------------------|---|-------------------------------------|
| 第1巻 日本語教師の役割／コースデザイン | } | 日本語を教えるうえでの全体的な問題をとりあげます。 |
| 第2巻 音声を教える | | |
| 第3巻 文字・語彙を教える | } | 各項目に関する基礎的な知識の整理をし、具体的な教え方について考えます。 |
| 第4巻 文法を教える | | |
| 第5巻 聞くことを教える | | |
| 第6巻 話すことを教える | | |
| 第7巻 読むことを教える | | |
| 第8巻 書くことを教える | | |
| 第9巻 初級を教える | } | 各レベルの教え方について、総合的に考えます。 |
| 第10巻 中・上級を教える | | |
| 第11巻 日本事情・日本文化を教える | | |
| 第12巻 学習を評価する | | |
| 第13巻 教え方を改善する | | |
| 第14巻 教材開発 | | |

■この巻の目的

かん もくてき

この巻は、読解用教材や読解に使える教科書の本文を、教科書に書いてある通りに教えるのではなく、みなさんの学習者が読解力を身につけるために何が必要かを考え、学習者に合わせて授業を工夫できるようにしてほしいと考えて作成しました。

この巻の学習目標は以下の3点です。

- ① 「読む力」（読解力）をどのように伸ばすことができるのかを考えます。
- ② 読解のための活動や練習がそれぞれどのような目的で行われているか、分析します。
- ③ 読解の授業をするとき、どのような順番で、どのような活動や練習をすればよいのか、具体的な授業計画を立てたり、練習問題やタスクシートなどの教材作成が考えられるようにします。

■この巻の構成

かん こうせい

1. 構成

こうせい

本書の構成は以下のようになっています。

1. 「読むこと」とは？

「読み」のメカニズム

* 「読み」のメカニズムをわかりやすく解説しています。

2. 読み方を育てる

「読み」の活動

「読む力」をつけるための活動

* 市販の読解教材の具体的な活動やタスクを分析し、それぞれの目的を考えます。また、目的に合った活動やタスクを作ってみます。

3. 「読む」授業の計画①

4. 「読む」授業の計画②

「読み」を中心とした授業の方法

* 「読み」を中心とした授業を段階を追って行う授業計画の立て方を考えます。

5. ほかの技能と合わせた

「読み」の活動

ほかの技能も組み込んだ活動の紹介

* ほかの巻への橋渡しになるような活動を紹介します。

2. 各課題（【質問】）

かく かだい

この巻の中の各課題（【質問】）は、次のような内容にわかれています。

かん かく かだい つぎ ないよう



ふり返りましょう

自己自身の教え方をふり返る

じしん

〇〇について自分はいつもどうしているか、それはなぜかを考えます。

自己自身の教え方について、問題点、自信のある点などを整理し客観的に考えること

じしん もんだいてん じしん てん せいり きやくかんてき

が目的です。

くくてき

ほかの人の教え方や新しい方法を知る

ほかの ほうほう

〇グループやクラスで学習している場合：

ばあい

ほかのメンバーや教師とのディスカッションを通して、ほかの人の考え方や解決方法

きょうし かいげつほうほう

を知り理解します。協働学習をお勧めします。

りかい きょうどう すす

〇独りで学習している場合：

ひとり ばあい

まず自分で考えてから、解答例を参考にもう一度考えてみてください。できれば、積

かいたうれい さんこう せつ

極内にも同僚やまわりの人の意見も聞くようにするとよいでしょう。

きょく どうりよう



やってみましょう

学習者にもどって体験する

たいけん

新しい学習方法を体験したり、今までやってきた学習方法を、その意味を考えながら、

ほうほう

もう一度やってみたりします。



考えましょう

活動や実践の意味を考える

かつどう じっせん

「ふり返りましょう」で出たことや、「やってみましょう」で挑戦したことの意味などを、

ちようせん

理論的な背景と照らし合わせながら考えます。

りろんてき はいけい て



整理しましょう

せいり

さまざまな方法を論理的に整理し、理解する

さまざまな ほうほう ろんりてき せいり りかい

それまでに取り組んだいろいろな課題の意味をもう一度整理します。そして、今後の

と く かだい

授業で、ここで学んだことを、形だけではなく、その活動目的や意味を十分理解して取

じゆぎょう かたち かつどうもくてき と

り込んでいけるようにします。

と

目次

1	「読むこと」とは？	2
1-1.	日常生活の「読み」を振り返る	2
1-2.	「読み」の過程 — 3つのモデル —	4
1-3.	「読み」のスキーマ	7
1-4.	「読み」で使うストラテジー	9
2	読み方を育てる「読み」の活動	12
2-1.	トップダウンの読み	12
(1)	予測の力を養う活動	
(2)	スキミングの技術を養う活動	
(3)	スキニングの技術を養う活動	
2-2.	ボトムアップの読み	21
(1)	複雑な構造の文の意味を理解するための活動	
(2)	内容の理解を確認するための活動	
3	「読む」授業の計画 ①	26
3-1.	日常の「読み」と同じような状況を作る	26
3-2.	前作業と後作業	29
4	「読む」授業の計画 ②	32
4-1.	初級の「読み」：目的に合った本作業	32
4-2.	中級の「読み」：段階を追って行う本作業	37
5	ほかの技能と合わせた「読み」の活動	42
5-1.	音読	42
5-2.	要約	47
	解答・解説編	52
	【参考文献】	77

1

「読むこと」とは？

1-1. 日常生活の「読み」を振り返る

にちじょうせいかつ



振り返りましょう

「読むこと」をどのように教えるかを考える前に、まず、私たちが日常生活の中で「読み」をどのように行っているのか、振り返ってみましょう。

にちじょうせいかつ

おこな

【質問 1】

私たちは、母語で、毎日いろいろな目的を持って、いろいろなところで、いろいろなものを読んでいます。みなさんは、「どんなもの」を「どのように」読んでいるでしょうか。(例)を参考にしながら、考えてみましょう。

れい さんこう

どんなもの	どのように
(例) 新聞 <small>れい</small>	タイトルや見出しから内容を予測して、記事を選んで読む。 <small>ないよう よそく きじ えら</small>

